

市場営業グループ

市場営業グループでは、国内外の資金・為替・債券・デリバティブマーケットでの取引を通じ、当行の抱える市場リスク、流動性リスクを適切にコントロールするとともに、各種裁定取引機会をとらえたオペレーションを行っています。

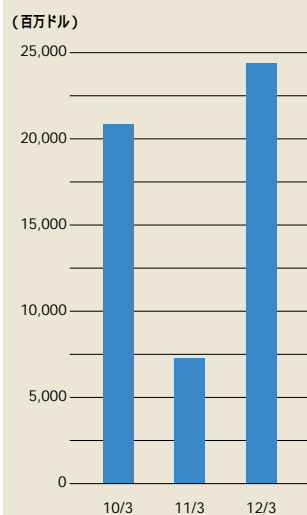
平成12年度は、各種制度改革、金融再編、情報技術革新に伴う市場環境の急速かつ大規模な変化を先取りし、積極的に活用することで収益機会の一層の拡大を実現していきます。

注力ポイント

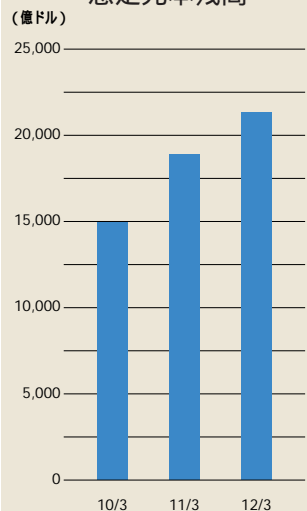
1. 金利動向を見極めた的確な ALM の実施
2. 新しい分野における収益機会の拡大
3. お客さまとの取引体制の整備拡充

業務内容

外貨建資金放出残高



デリバティブ取引 想定元本残高



バンキング業務

国内外の貸出金、債券、預金等の資産・負債については、外貨は市場営業第一部が、円貨は市場営業第二部が ALM の観点から市場リスク・流動性リスクを適切に管理しつつ、金利環境や市場の需給環境に即したオペレーションの実施により収益の極大化を図っています。

平成11年度は、都銀初の国内普通社債として10月から「住銀ベンチマーク債」の発行を開始したほか、他の業務グループとの連携により外貨預金等の顧客性資金を増強し、注力ポイントである資金調達力の強化を図ることができました。

平成12年度は、国内外の金利動向を慎重に見極めた的確な ALM を実施するとともに、運用手法の多様化を進め、バンキング業務の収益力の強化に取り組んでいきます。また、導入が予定されている日銀の新しい円決済手法である即時グロス資金決済 (RTGS) へも万全の体制で臨む予定です。

トレーディング業務

トレーディング業務は市場営業第三部が担当し、東京においては外国為替ディーリング、債券ディーリング、デリバティブ取引を、ニューヨーク、ロンドン、シンガポールにおいては外国為替ディーリングを行っており、お客さまのオーダーフローの増強および各種裁定取引機会の捕捉等、収益機会の拡大に努めています。

平成11年度は、市場環境の変化や通貨オプションに対するお客さまのニーズの増加に対応するため、外国為替ディーリング体制の一部見直しを行いました。平成12年度はもう一段の見直しを進め、お客さまとの24時間取引を開始するとともに、通貨オプションのお取引窓口の増強を図ります。また、金利や為替取引以外のデリバティブ取引市場の拡大に対応した体制整備も行き、お客さまのお取引ニーズにお応えすると同時に新しい分野における収益機会の拡大に努めていきます。

時価会計対応

平成12年度からの新しい会計基準により、従来、トレーディング業務にのみ適用されていた時価会計が、バンキング業務においても金利スワップ等のデリバティブ取引と投資債券等の有価証券を対象に適用されることとなりました。当行では、ALMにおけるリスク管理手法の考え方と合わせたマクロヘッジ会計等の適用を行い、預貸金や資金の運用・調達等とバランスのとれた適切な収益認識ができるよう対応しています。

システム対応

有価証券と円資金取引の新システムが平成11年度に全面稼働し、開発中であった外国為替ディーリングの新システムが平成12年5月から順次稼働しています。すでに導入済みのデリバティブ取引の新システムと合わせ、すべての市場取引について新しいシステムでのサポート体制が整いました。これにより、従来にも増してより高度なオペレーションが可能となっています。

組織体制

当行では、合理化・効率化の観点から、市場関連取引の市場営業グループへの集中化を進めています。海外拠点については、米州ではニューヨーク駐在、欧州ではロンドン駐在・パリ駐在に集約しました。また、国内においては、お客さまの利便性の向上を目的として、市場営業グループがお客さまと直接お取引させていただくダイレクト取引体制を整備拡充してきました。今後もより多くのお客さまにご利用いただけるよう、間口の拡大を図っていく予定です。

